

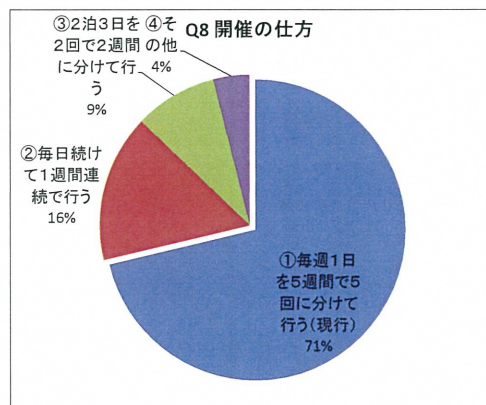
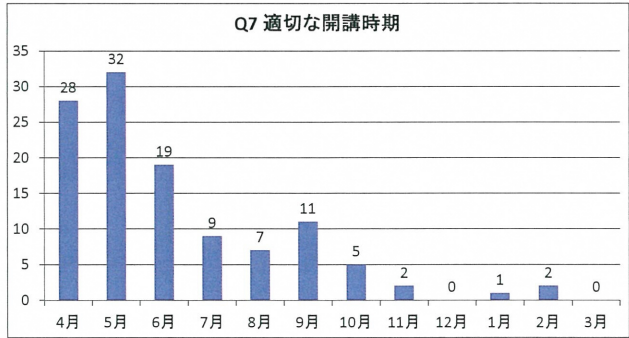
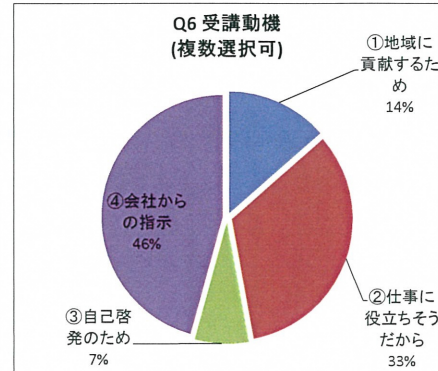
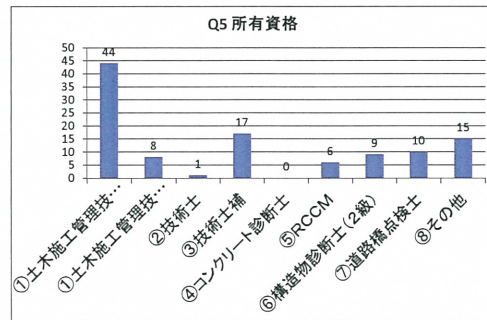
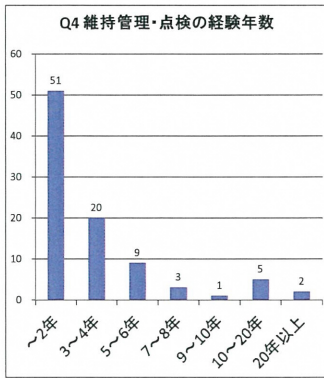
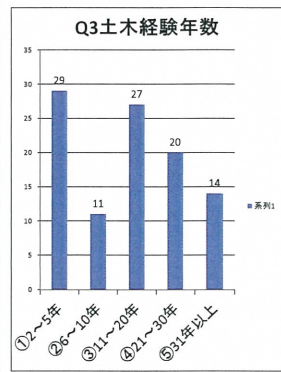
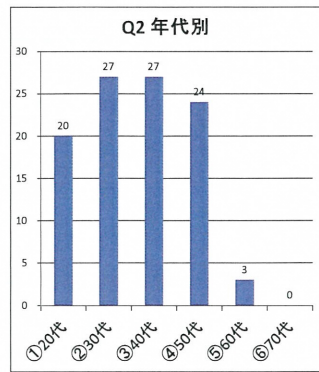
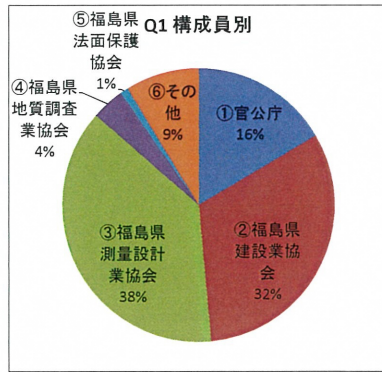
平成30年度 第2回ふくしまME(基礎)コース受講者 アンケート結果

調査日 平成30年9月7日

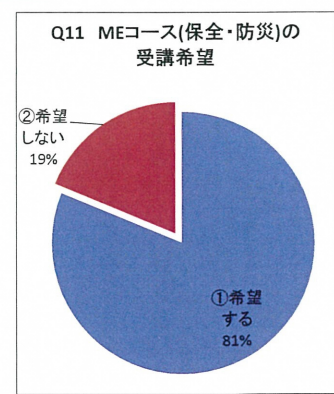
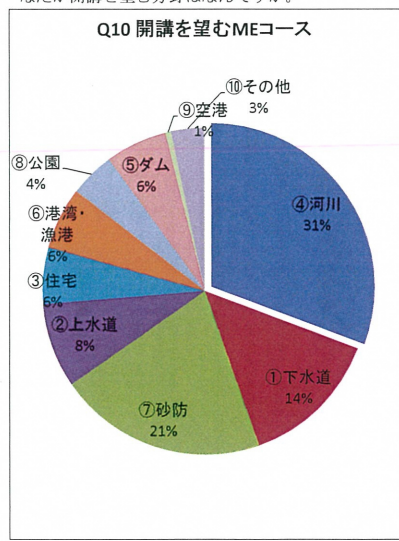
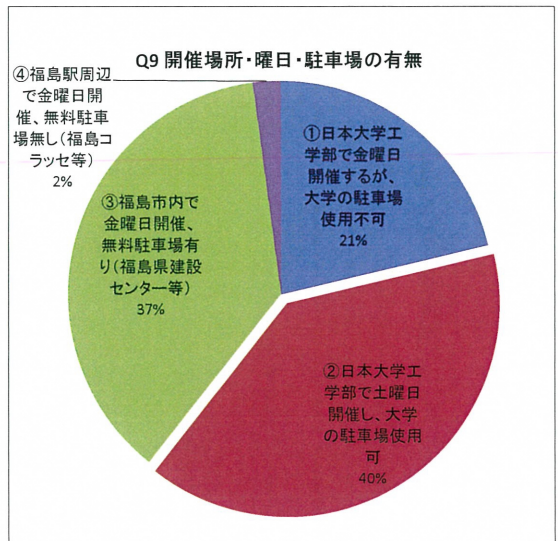
ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会事務局

集計結果

集計人数 103人

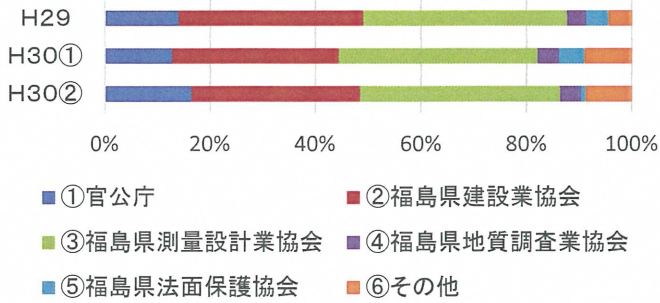


Q10. 現在MEコースは、保全(橋梁)と防災ですが、あなたが開講を望む分野はなんですか。

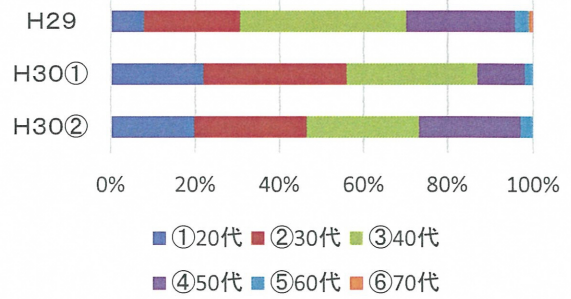


平成29・30年度 ふくしまME (基礎) コース受講者 アンケート比較

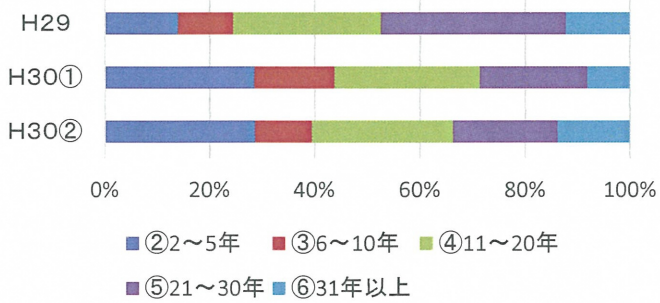
構成員別



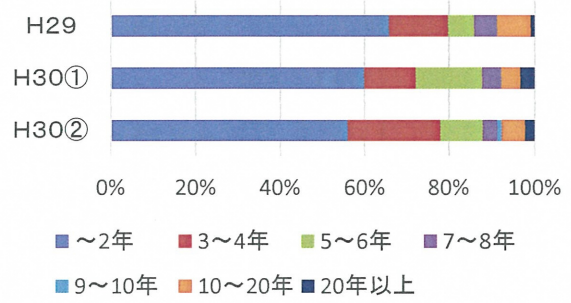
年代別



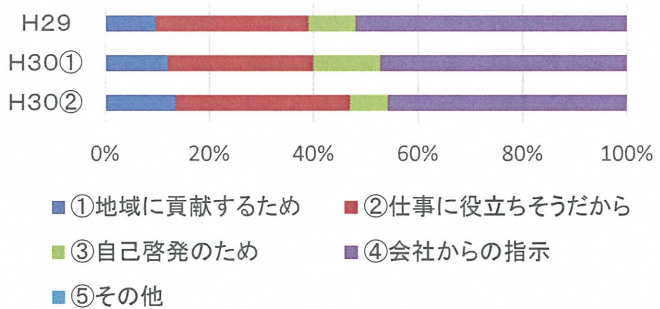
土木経験年数



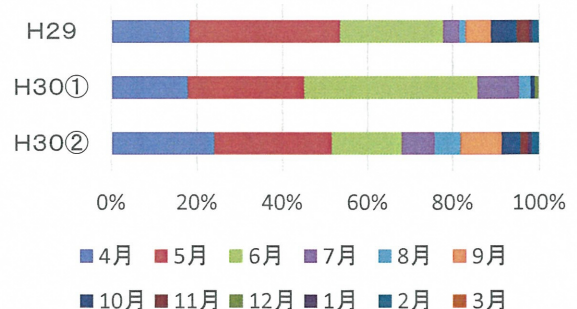
維持管理・点検の経験年数



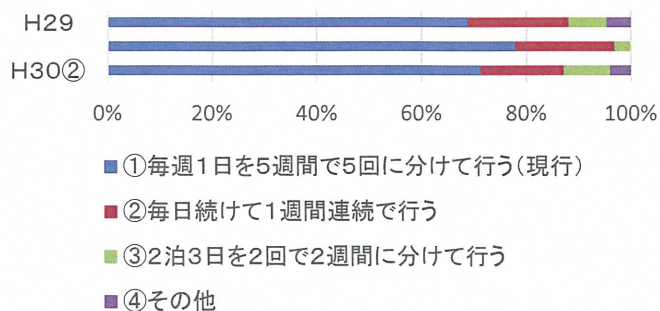
受講動機



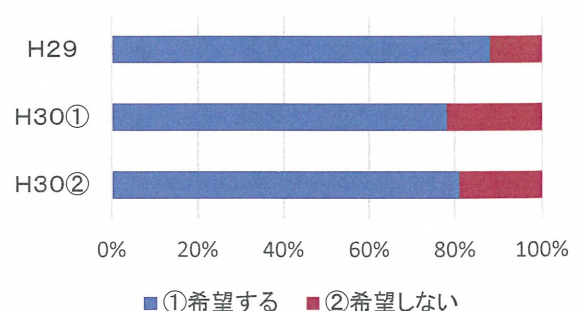
希望開催時期



開催の仕方



防災保全コース受講希望



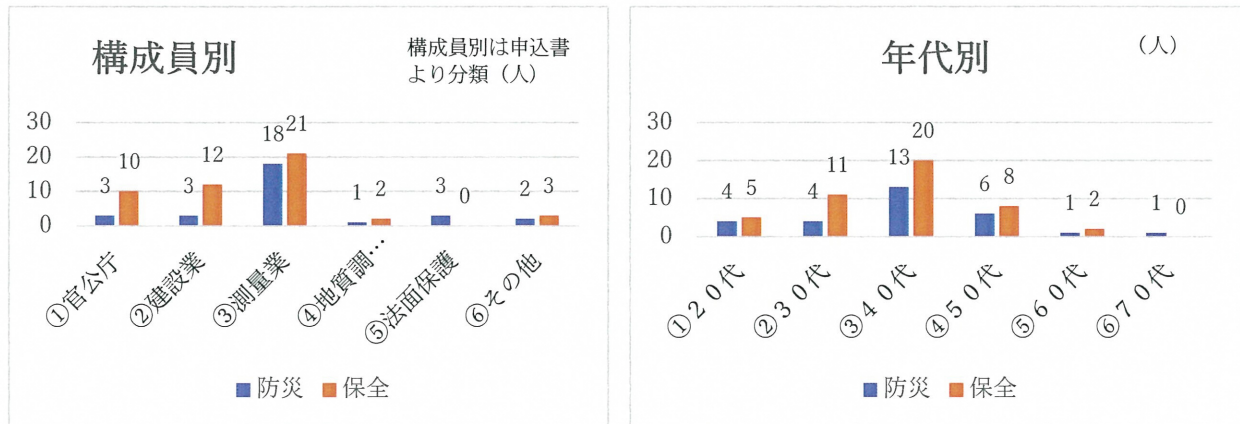
ME（防災・保全）コース受講者アンケート

1 受講者の属性（構成員別・年代別）

受講者は防災コース30名、保全コース48名である。今回のアンケートは防災コース29名、保全コース46名から回答を得ている。

構成員別内訳は以下のとおりで測量設計業協会会員が最も多く受講している。

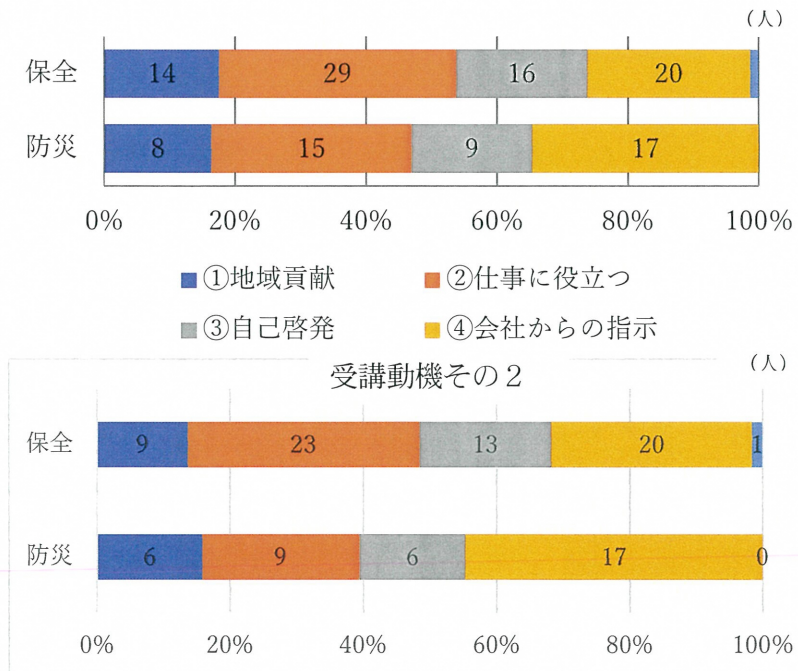
年代別では、上級コースということもあり、40代が最も多く、約4割を占めており、20代30代合計の3割よりも多い受講者となっている。



2 受講動機

受講動機割合を見ると、「②仕事に役立つから」が最も多くなっているが、本設問は複数回答としており、「④の会社からの指示」を絶対動機と捉えると、その割合は下図のとおりに変化する。（④を回答した方の他の複数回答を無いものとする）

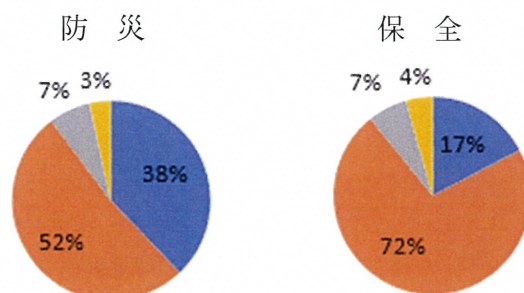
しかしながら、この場合でも「②の仕事に役立つから」という動機が多いものとなっている。



3 講義

(1) 講義内容全体について

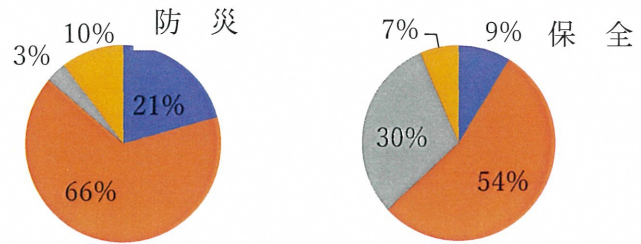
防災コース、保全コースともに、約9割の方が、「①大変良かった」「②概ね良かった」と評価している。



(2) 講義の理解度

防災コースについては、8割強の方が「①大変良かった」「②概ね良かった」と評価しているが、保全コースについての①②の方は6割程度に留まっている。

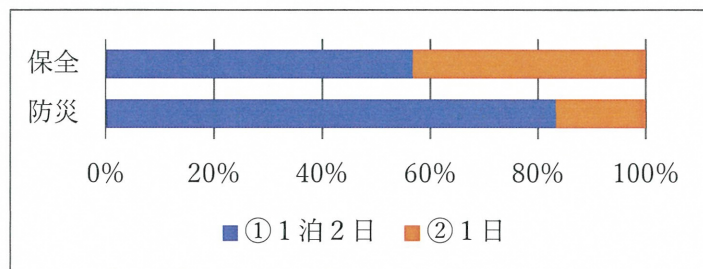
理由としては、「内容が少し高度で範囲が広がった」「講義内容が多く理解不足が多かった」「ハイペースで進んだ講習だった」「施工経験だけだと難しい」などが挙げられている。



■ ① 大変良かった ■ ② 概ね良かった
■ ③ どちらとも言えない ■ ④ あまり良くなかった

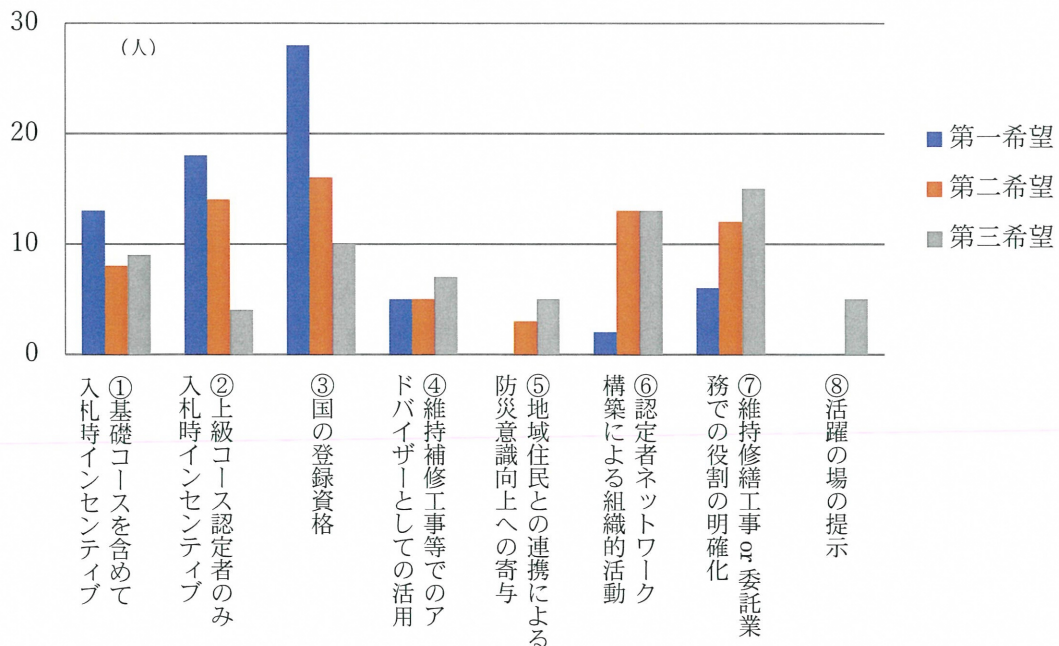
4 現地実習期間

防災については概ね1泊2日で良いとしているが、保全については意見が分かれているところである。



5 認定者が望むこと

本設問は、第一希望から第三希望までの複数で回答をいただいた。防災コース保全コースとも回答の選択肢に大きな違いはない。



この結果、第一希望第二希望ともに「③国の登録資格」が最も多く望まれている。

次に「①②の入札時インセンティブ」、次いで「⑦維持修繕工事 or 委託業務での役割の明確化」の順となっている。

■基礎コースについて

Q.年間開催回数についてお伺いいたします。

年間開催回数	人数	割合	理由	人数	割合
①年1回	15	75%	1-①負担が大きい 1-②年2回の時間を会社から得られない 1-③上級コース時期を考えると難しい 1-④その他	9 4 7 0	45.0% 20.0% 35.0% 0.0%
②年2回	5	25%	2-①早期にME技術者の育成が必要のため 2-②受講機会の拡大を図るため 2-③その他	1 4 0	20% 80% 0%

※理由は複数回答あり

■防災・保全コースについて

開催時期	人数	人数割合	理由	人数	割合
①分ける	8	38.1%	1-①重複している講師の負担軽減 1-②両コースの受講が可能 1-③その他	4 3 2	44.4% 33.3% 22.2%
②同一時期	10	47.6%	2-①重複している講師の拘束日低減 2-②その他	7 3	70.0% 30.0%
③どちらでも良い	3	14.3%		0	0%

※理由は複数回答あり

■認定者に望むこと

認定者に望むこと	第一希望	第二希望	合計
①国の登録資格	5	1	6
②入札制度で企業の技術力や配置技術者としての評価	10	5	15
③入札制度でその他の評価	2	2	4
④工事や委託業務での配置技術者としての役割の明確化	3	6	9
⑤工事や委託業務でのアドバイザーとしての役割の付与	1	2	3
⑥地域住民との連携による防災意識向上への寄与	0	0	0
⑦認定者ネットワークの構築と組織的活動	0	5	5

※複数回答

最も望まれていることは、②③の「入札制度での評価」であり、次に「国の登録資格」、「工事や委託業務での配置技術者としての役割の明確化」の順となっている。

■カリキュラム等についての意見

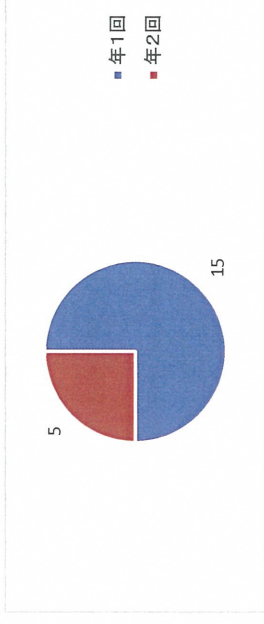
- ・テキスト内容を改善していくことや重複部分の修正が必要。内容の改善については、例えば、最新の情報を取り込むなどが挙げられる。
- ・講義回数・実習準備などの負担があるため、企業人の現状を考慮した依頼をお願いしたい。

■ME育成講座に対する意見

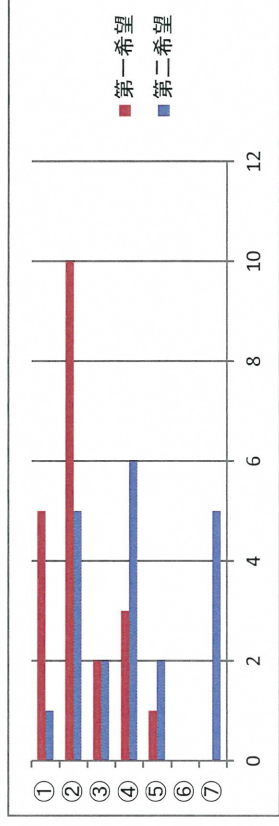
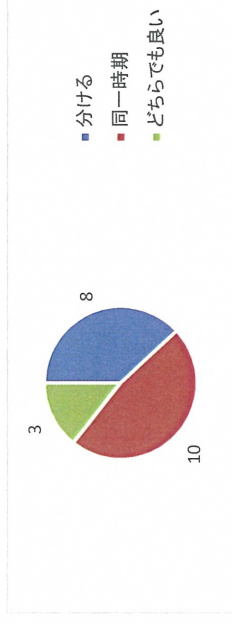
- ・認定されて終わりでは無く、資質の向上や研鑽を図る必要があると思う。
 - ・持続可能性を担保するための仕組みについて、よくよく考える必要がある。
- その一つとしては、認定資格に登録されるか否かと、認定技術者に早期にインセンティブを与えることにかかっていると思われる。
- ・不合格者に対してのフォローアップ策を考えていかないと、今後の受講者確保に結びつかないと思われる。

22人中21人から回答を得ている。

■基礎コース年間開催回数



■防災保全コース開催時期



○5 9市町村のうち4 8市町村から回答があった。

1 インフラメンテナンス育成協議会の認知度

4 8市町村のうち9市町村が「知らない」と答えている。複数市町村が「知らない」としている管内もあり、更なる周知が求められるところである。

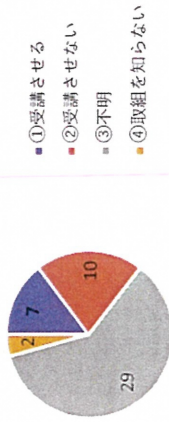
協議会の取組や育成講座の内容に関する説明は、取組を知っている1 7自治体を含め2 1自治体が希望しているが、取組を知らないし説明会も希望しない自治体が5自治体存在している。

このため、取組組みを知らない自治体に対しての訪問に加え、説明会の開催が必要である。

2 次年度以降の基礎コース受講について

(1) 「受講させる」と回答したのは7市町村に留まっているが、不明と回答しているのが6割にのぼっている。

次年度以降の基礎コース受講



(2) ②受講させざるかどうかかわからない理由

理由の第一は上記①と同様「時間的余裕があれば受講させる」というものであるが、第二は「行政職としてメリットがあれば受講する」となっている。

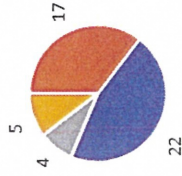
また少数ではあるが「講義の内容が役立つかどうか不明」や「行政として必要な知識かどうか不明」というものもあり、理由の第二で最も多かった「行政職としてのメリット」と併せて訪問等により直接M E 育成の重要性を伝える必要がある。

その他としては「受講済み」「技術者がいない」ことが理由として挙げられている。

取組の認知度	自治体数	説明会の開催	自治体数
①知っている	39	希望する	17
②知らない	9	希望しない	22

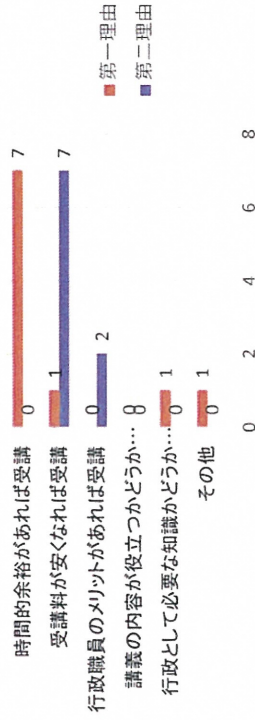
取組の認知度と説明会希望の有無

- ①知っている
- 希望する
- ①知っている
- 希望しない
- ②知らない
- 希望する
- ②知らない
- 希望しない



(2) 「次年度以降も受講させない」または「わからない」としている理由を複数回答で聞いた。

理由の第一は「時間的余裕があれば受講させる」が最も多くなっている。

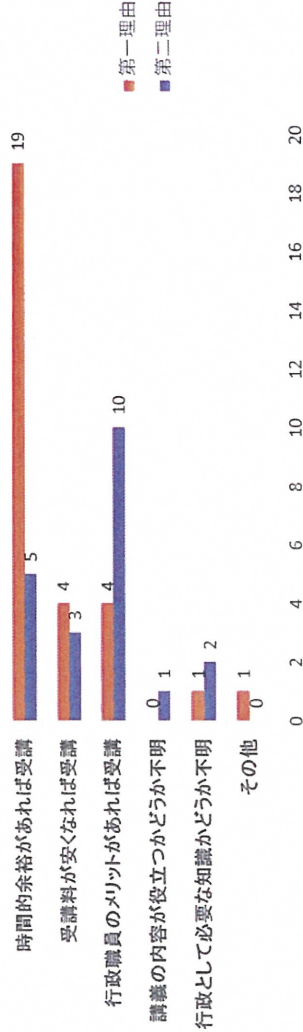


(2) ②受講させざるかどうかかわからない理由

理由の第一は上記①と同様「時間的余裕があれば受講させる」というものであるが、第二は「行政職としてメリットがあれば受講する」となっている。

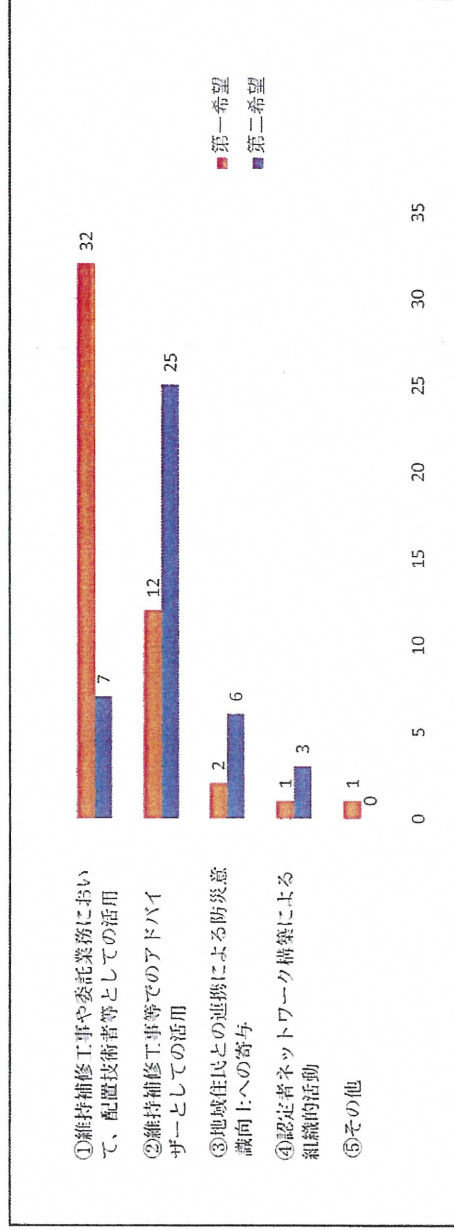
また少数ではあるが「講義の内容が役立つかどうか不明」や「行政として必要な知識かどうか不明」というものもあり、理由の第二で最も多かった「行政職としてのメリット」と併せて訪問等により直接M E 育成の重要性を伝える必要がある。

その他としては「受講済み」「技術者がいない」ことが理由として挙げられている。



3 ME認定者に望むこと（複数回答）

ME認定者に望むこととして、第一は「工事や委託業務での配置技術者等としての活用」であり、次いで「工事等においてアドバイザーとしての活用」となっている。



4 その他

来年度受講予定7市町村のうち、4市町は既に受講者がいるところであり、市町村によって、インフラメンテナンス技術者育成への取り組み方に著しい違いがある。

協議会としては、この4市町のように、今後のインフラメンテナンス技術者育成の大切さ、重要性を認識して貰えるよう訴えていく必要がある。

なお、技術者がいない町村に対しては、今後の維持管理手法も含めてアプローチの仕方を検討する必要がある。

会員企業アンケート

1. 次年度の受講予定

分類	測量協会	建設業協会	地質業協会	法面協会	計
基礎	46	133	6	9	194
防災	35	60	5	3	103
保全	30	65	2	2	99

回収率

団体名	会員数	回答数	回収率
測量協会	71	64	90.1%
建設業協会	246	119	48.4%
地質業協会	14	6	42.9%
法面協会	21	7	33.3%
計	352	196	55.7%

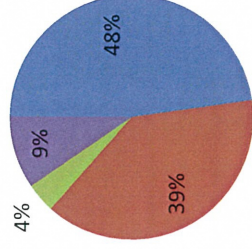
2. インフラメンテナンス協議会の取組の認知度・説明会希望の有無

取組	説明会	測量協会	建設業協会	地質業協会	法面協会	計
①知っている	①希望する	20	56	5	4	85
②知らない	②希望しない	24	43	1	1	69
①知っている	①希望する	1	4	0	2	7
②知らない	②希望しない	1	16	0	0	17

インフラメンテナンスの取組については、13%の企業が「知らない」と答えている。また、取組に関する説明会については、52%の企業が希望しており、取組みを知らないと回答するところでは55%が希望している。

一方、取組みを知らないと回答した企業は29%しか説明会開催を希望しておらず、一部企業ではインフラメンテナンスに対する取組みが希薄な結果となっている。

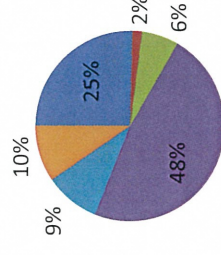
ME取組認知度・説明会希望有無



3. 次年度受講予定がない理由

項目	測量協会	建設業協会	地質業協会	法面協会	計
①時間的余裕がない	1	14	0	1	16
②他の手段で技術の習得が可能	0	1	0	0	1
③受講済みor資格者確保済み	4	0	0	0	4
④今後の業務への貢献	4	26	0	0	30
⑤不明	1	5	0	0	6
⑥その他	2	4	0	0	6

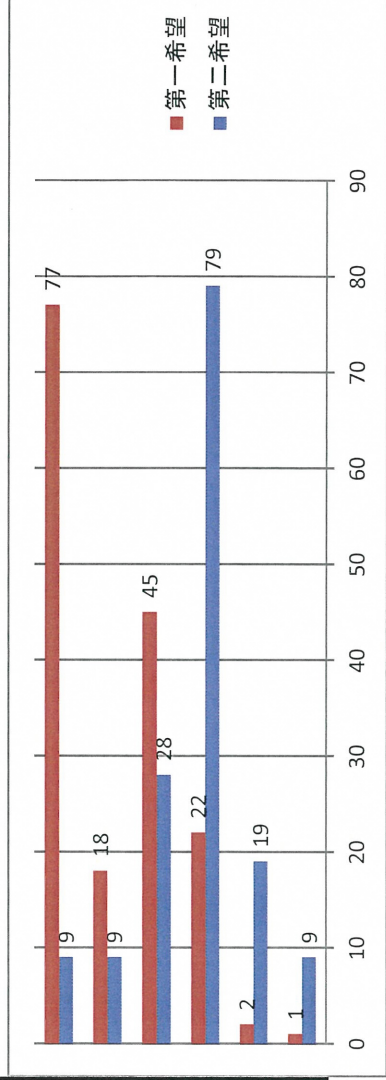
次年度受講予定がない理由



次年度受講予定がない理由としては、「今後の業務への貢献が不明」が第一であり、次に「時間的余裕がない」の順となっている。

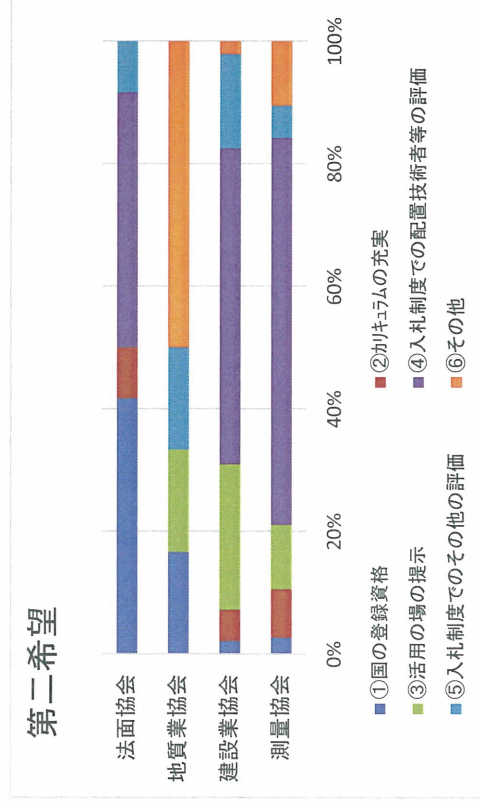
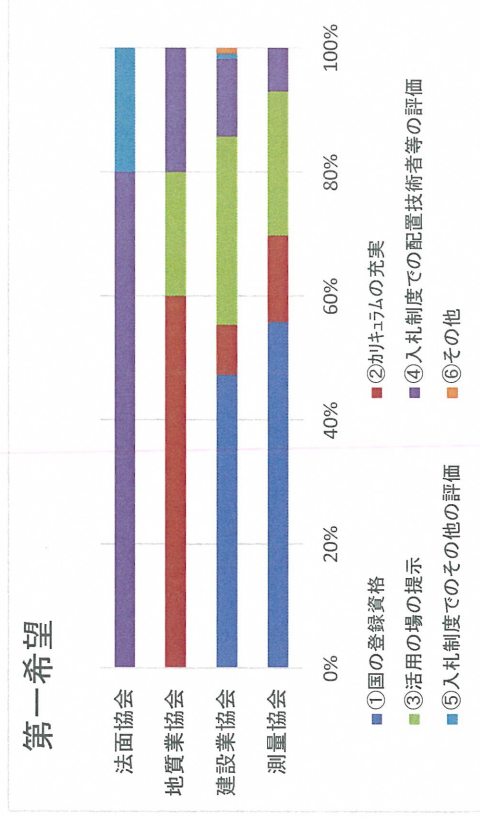
4. ME育成を進める上での必要な事項

方策	第一希望	第二希望
①国の登録資格	77	9
②カリキュラムの充実	18	9
③活用の場の提示	45	28
④入札制度での配置技術者等の評価	22	79
⑤入札制度でのその他の評価	2	19
⑥その他	1	9



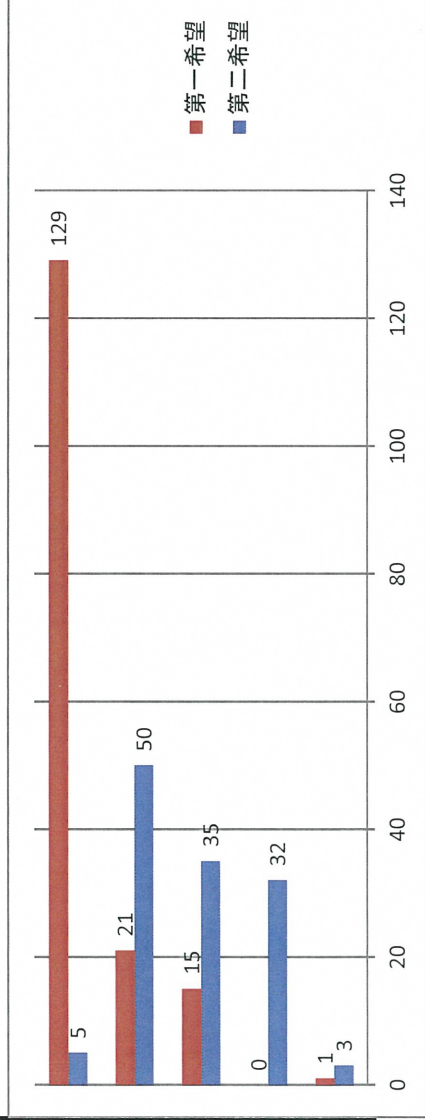
ME育成のための方策として、第一希望は「国の登録資格」、「活用の場の提示」、「入札制度での配置技術者の評価」の順となっている。第二希望としては「入札制度での配置技術者等の評価」が最も多い。この結果から、第一希望としては、MEとしての社会貢献的役割を、第二希望としては実質的な役割が必要と言える。

業種別 ME育成を進める上での必要な事項



5. 望まれるMEの活用

活用方策	第一希望	第二希望
①維持補修工事や委託業務での配置技術者等の活用	129	5
②維持補修工事や委託業務でのアドバイザーとして活用	21	50
③地域住民との連携による防災意識向上への寄与	15	35
④認定者ネットワークの構築と組織的活動	0	32
⑤その他	1	3



MEの活用についての第一希望は、「維持補修工事や委託業務での配置技術者等の活用」が圧倒的に多数を占めている。第二希望としては、「維持補修工事や委託業務でのアドバイザーとして活用」が最も多く、「地域住民との連携による防災意識向上への寄与」と「認定者ネットワークの構築と組織的活動」が拮抗している。

この結果から、第一希望は実質的活用、第二希望は社会的貢献としての活用と言える。

業種別 望まれるMEの活用

